

論題：社会行動における個人差と神経機構

講演：春野雅彦（玉川大学）

近年の行動経済学、神経経済学の発展は目覚しく、様々な社会行動の神経機構が明らかにされつつある。この講演では社会行動の個人差に軸に、従来研究や我々自身の研究を御紹介したいと思う。ゲーム理論では、単純かつ完璧な処理能力を仮定し、その結果としてどのような均衡に至るか議論をすることが多い。一方で、生身の人間は能力や嗜好の個人差があり、同じ問題に対して異なる戦略や脳内ネットワークを使うことが多そうである。このような行動や脳活動の個人差を神経経済学の立場から詳細に見直すことで、より現実的な理論が出てくる可能性を模索できれば面白いと思う。神経科学の知識は特に必要ない形にしたい。